枇杷園類題發句集 上

梅花園先生撰

枇杷園類題發句集

尾陽

東辟堂藏

稿本
花園

山の雷公の珊瑚列
子の寓言なる人
ゆくるるも亦
如し今梅花園主人
宋梅陳文生雁乃と世

有一の高さを望み人の
即ち毎年一度来り
もと見て仏あり月を
月の隠るるを知らず
合しも隠なれと

夜明の明星
雖しい春の花へ
とそそに樺小
の名人に進む造化
の神の手もかすり見

實撰者也

しひつく

乙厨龜

五道

彬把園句集世に廣まりて
のち小説編の沙汰聞しかと
事なきを以て沒せしも紀
雙孔德は年ゝ高くして
風調後慕ふ人多く事
實は芭蕉翁に一大家
初心の編なり

ほとゝぎす集など雅撰の意味
あるべきの句數多く成調後
學ぶべき題を得ざるべきの
まれ〳〵多くおもし士朗集
一世の句をあつめ四時の雜を
わかつの初學のため取原べき多
かゝ撰ため類題して書名も

あるべき所濃べきかゝ動物部
志ゝしおもふ所集八篇實謙遜
ひたすら名聞ばかり生涯こそ
其口号みつゝ志原〳〵四道を
きゝ原もほべき事八家の集べき
ものたるもあゝかゝ成喰原
數仕ほべき事かの曼倩ゝ

二十二萬言の和字序
机にかけ筆をはしり
侍る〳〵師德秋仙を決す

文政乙酉秋

梅花園梅間記

類聚士朗雙髮句集卷上

春之部

歳旦

何ゆゑ〳〵て喜立あり〳〵な
年賀
とつむや多〳〵よ年の炭しき
四月
灯は見ゆる戸も月は宵森式
元日
入り〳〵年乃出もてよ雪は雲

花の春　綿つくしてそなたの真乃真

月雪のやしなりかてて花ぬ真

元日子日

松はもしもつかけなまと花の真

よしめとそのまきし花乃春

二日

月雪ぬもしめも年の二日ぬ

春も二日ぬもろ根

松ぬけやきのかハ初ぬかハ月

筑波山麓のもと秋枝氏霊平

意して弟姉子の糸も春ぬ匂ひより梅の花

松の内　菜ぬ戸や立初て見まは春ぬ内

若菜　ひらか指はとろくく春

老つむ菜かと人ぬ引むかし

鶯ぬ鳴ぬ春菜ぬ畑道

菜雲居醉歩

そしをとも志て若菜を摘よる

鶯乃聲もるしまぬけりなぬ

ふるさとうすく

梅若菜　道くさくハ蜜のこかもる　梅ひろ

睦月ふつかの夕べ　移おとろ　の和を

ゆくよ　移れ生垣　ふるさとの　たゆ

このゆしき　菴あと　雪月の　雪と

ひろかしき　武蔵　すすく　菜を

打いろ　雪

世ふるまこと　雪ふ　うつろん　身とう　光

雪解　雪けしの　面うる　陰ゆり　於　廉山

雪とけの　水よ　嶮なる　川よ　雪

春雪　春の雪　雪のさ　ぬ　枝の　を

梅間亭

さ　雪　く　み　ん　春の雪

梅　人　雪　雪　乃　雪

土山　て

残雪　きく　の　雪　梅　子　傳　邦

菜芽　匿　ひ　く　菜　芽　お　宮　都　山

芦　芽　や　友　し　ま　雪　鳴

芳草　我よ句なし芳草こそ墻ぶ

けうとくやみるもまもる菴の雑

古井をかこむ

芳草や横よりしなる松のえだ

こしひなきこもも咲らん月と梅

梅ゝ香や俗ぬ[illegible]

梅よりせく屋もは書月枕

梅垂き門や其角ゝれくし

契因社踏高

梅

梅よりは梅ねよ柳をうつし来

梅よ来ぬ[illegible]や小盃

子代倉すて芳の笑を拾く

梅見くもも芳見くも　消う邨

曉臺興　初七日

うぐ梅見て[illegible]き夕[illegible]

世よふるまく角のこるや角う梅

俳諧のなき本なりうめの花

玄峡て梅をうぬ日ハなうう祭

梅さくるきしう人の心う梅を愛

初瀬にて

賀茂のくまの乃梅そうめ社会

梅うしやかさしあるくも雪月花

造花梅を造るを遠くて月のひを

おりし後の花けを和梅を園に

集て梅う香ゆ分を梅こうれハ

造物者のうくはうれを造をおせ乃

ゆくくるくりてり

月や春ちう人やを春の梅花会

月雪

うくるる新やゝ数本のうゝ先の花

白梅の大けしき朱野ゆ

善雨菩法舎

散梅うゝ春の墨深はうひうな

あくしや人くもよくくと梅の白う

河ゝ孤や吟ゆそうさうれて梅花花

梅花園即事

やさしくや年よりまさるうめの色
梢をふく風ゆゑ梅乃花ひとり

芭蕉翁肖像開眼

眼も鼻もひらくせうゝ梅の花

菅公千年忌亀尾天満宮

影堂法楽

玉垂るゝやあるゝ小さ梅ゆ宮

梅花雪梅久歌

春宵一刻値千金

ゆきの初る門へうゑ来よ月と梅
山高く水長し梅とうゝ
深山なる月のうゝ梅乃花
江の上や二人うして影あの色
五十ち山の麓六十八山ゆ半腹
老の山路大仮もらあもとうゝ
ゆるつゝいゝ来ゝ仮也
山よ古ゝ来ゝあり梅の下伏ひ

梅志園の梅見八二月二ちゝ

あ[illegible]て多賀まて[illegible]の為ほ[illegible]
投[illegible]
多賀来[illegible]是也[illegible]を梅に心[illegible]
月雪ハ梅[illegible]二月乃あ[illegible]
梅[illegible]多[illegible]心[illegible]こ丈州の業れ本畑
ゆ[illegible]と棹[illegible]梅花園の
梅は閑と漕まわれハ放[illegible]小艇
[illegible]の[illegible]
おり[illegible]の舟ハ[illegible]れ南[illegible]梅や

あ[illegible]り[illegible]の[illegible]
[illegible]ハ[illegible]小舟をつ[illegible]る梅の花
[illegible]のやうよ梅[illegible]れ[illegible]梅乃花

九岳亭

梅の香や藪の中まて漕ちまり
[illegible]唐よ高[illegible]心ハ琵琶
湖上よ梅ふ
様の香や[illegible]の影を志賀の山

梅花園

柳

ひう巻う法の生えそめ柳見ぶ
御嶽の高ふきてうく柳うな
猿川の猿うきおそ柳うな
青柳こうま世の垢ちうう
青柳やうくうく吠の犬
伊勢うまて
青柳乃面や小家のひうう口
柳ちやまし筏まく毎
花柳いうく新うう柳いよく新う

鶯

矢矧うう
青柳のう東海道八百里う郷
柳青しうやいうは青を強し
青柳宿
青柳の岩根くを黄白し
一おう川汲う出る柳こう那
鶯う高ふうゆうゆうへうな
ゆうし青ら只鶯は心哉
鶯う漕ちうう小舟うな

ほうとう帝釋堂一巻の和
雲ぬらしくゝ夢くゞきき木の葉ぶ

題夢見水滴

夢よ石しい嘗うハ水一升
叶天ゝ霊夢れ名なりし
らひ其の宿ハちいきき身殺ぶ
夢乃梅工嘗ゆや三ゝれ身
夢ゝかゝも鳴ゝ身と梅
小のふ色ゝ蓍の来ゝて

庭掃男乃巻ゝ
鶯とゝまなゝ梅ゝ垣根して
夢ゝ清澄乃水ゝなり
ゝて中ゝ夢嘗ゝ豆の身
ゝや嘗ん夢見ゝ垣れ内
箱根山
夢れ藻ゝきくゝ言ぶ
嘗ゝゝ夢弁ゝゝ
夢ゝゝ世と竹の中

鶯もよう来し友よりよりに二度三度

我庵ハ宿りし鶯西月根

椿

しめ柳け一里ぞ椿の郷

春風

春風や柳にあてゝる椿の笠

正月十三日伊勢国にて入寺

柳子といへる郷に住侍る

春風やとらし踊乃柳子汰

明日もおん歩も旅にかん春の風

帰雁

雁鴨のつくや帰雁は畑その

白魚

白魚のありとは見へて松のかけ

若松

うつくしさ砂に小松のみどりかな

霞

舟人ハひとをまねりて綱引はて

胡螺貝の砂漑にこりけ霞かな

としよりハおくりくも霞の根

まさ雲乃きりんまうぬあさ霞

八重まさ庵の梅橋流しけり

涅槃

薮ちや海士れあけゐる涅槃像

是むくる見事しに死ぬハ仏かな

盜人のうしろくらめぬ涅槃像
彩買ふ人へとは涅槃なる

朧月

朧ゝ十わたりの松の月
家毎の香ゆあり梅月
初日ちらりと春の月乃老ぶ

春月

春の月雑子の春ふるきぬ
春乃月森毫の墨と通ふ
少年行
春の月駱ゝしらと並へうる

雑子

春の月松よりあまり外よりあらく
朝ゝ春ゝ春ゝ春ゝ春乃月
高浪
春雪のつく歩すれハ春の月
帰り来る鳴の焼雲きしれ多
ちらしとハ色よ紙子鳴拾子ぶ
ふらうしてはゝ鳥ゝ春武
幻住庵
松ゝのきしゝ閑へうり唐の雨

面よ明くく雑子のうこゝぬ畑ぶ
海苔や雑子れ久けも人の家

大森山中

うちあうもうく雪れきも夫ゝ
雑子頬白ゝふめつゝしや鳴鳥
横雲や塊ゝうもはきしれ夢
湯杖よ雪おき彩れ乙鳥哉
乙鳥乃燕もなゝぬ小也ゝ那
塩木つむ中と並れ往来ぶ

燕

帰雁

雨ちくつもゝうゝ並ゝ垣根ぶ
帰ねくゝ雁なゝ芦乃二茎ぶ

西湖

今一度望四ゝもちよ帰雁
雪霧又海雁となりゝ多町
梅柳丁も心やのこゝもちん

春雁

のゝめゝハ夜を鳴ゝハもゝの丁
燕多や鶯ゝ玉巣くゝ春の雁

雲雀

ゝゝ毎ゝ同ゝりもゝゝ揚雲雀

雀
蝶

父母はありうとを作り啼雀
泣きうとまるは情り蝶うまる

小町讀

蝶鳥
蛙

ちふるれ程恋人の対ふらら
淳しつも花れけるまと鳴うら
蛙やめはひ〳〵しまるの鳴
夕〳〵やみなきでよなく蛙
見ええう〳〵恋〳〵水り蛙ぶ

茅場池

つく〳〵恋ひおうり夕うら
笠寺や蛙鳴花れぬ色も蛙
人も姿へ蛙もふく〳〵山家ぶ
棚格や色よく〳〵仲ようく蛙
葉ぶうけハひふく〳〵事蛙ぶ
生砂地やうふ遊てり生日

陽炎

陽炎の春〳〵白〳〵ふと蜻乃鼻
けちふやつふと春〳〵ふつふと
陽炎を泳しき物と思〳〵し

猫恋　山ぶきの一夜はるゝ猫の恋

紅梅　梅ばなよりわれり猫のりゑぶり

寄居虫　なりれもて月もうゝなれやとゝ雪

田螺　雪ゝゝきけハ泥しき田螺ぶり

平思

見ぬうちを淮の田ましれ後住居

花ちり月も入ゝり田かゝ売

待花　とゝくゝ世話しゝ成ぬ花の友

三月廿六日　吉和亭ようまりて

はなしまこゝしハむの逢き

年ゝあれあり成ぬ花ゝ咲

出ぬ出ぬよりも事もうなと

剛ゝうい小

初桜　ゝゝ月ゝあハれゝ雲ん物ゝゝ

菊根　菜の家ゝゝや二ぶれ月ゝさう

春草　朝ゝ出ゝゝ雑ゝゝ草の草

苗代　姫ゝ月ゝ鶯の事ゝう事ゝ草

稲ゝゝ里ゝ月ゝ月ゝ

菓花

菓乃花や志賀の山越霞さへ
菓れ玉子大名うねる菓の郡
梅ゝ肥ゝ菓の宮すゝめ玉ふ
桂五亭

菓乃花よ深めよ雀れ柿太
かくしひろしも釈きめさせる
けしきもりんこゝ子花ぶき
ゝ浮ゝ
みの玉ゝ口蜜ゝ嘴ゝ常雀

種蒔

梅ゝ伊勢ゝけゝなの宮宵身枝
夕月ゝ淋しゝ種実ゝ吉人
家ゝ賀ゝ
善ゝ顔の久ゝ
春

ゝき事ゝ
路巣園中ゝ蒼蝉一梅移し
栽ゝ
ゝ
ゝ蝉梅ゝ人ゝ乃色
春ゝ
ゝ

春水　春もよの乃出入松乃一本の南
春海　春乃水長閑へ落て影永し
　　住吉の春はしの面より春の海
　　凡化亭得春字
春夜　春の夜紙あるとなり和八分ろ多案
　　醉後
春もよおるとの対し　対枕
春の夜はおり落ち八黒茶椀
春乃夜の夏ろあるく都ぞ

三月　春の夜を心はあるとなり案
　　大ゝ寒よ多はひ四なき二月哉
更衣　きさゝや入るは庶ろ多
凡巾　いうけく沸き松の程ぞ
　　凡巾きれく緑ゆ多はる哉
永日　屋根ゝきよ雑は嘶は永し
嘶子多　紫は戸や孫てとるものと嘶子多
雲入多　鳥雲よ入ぬ谷乃つゝみぞ
雛　雛は駕ゝ多はるゝ見へ初ぬ

桃

まりこれ宮

うぐひすもうつり桃さくうつり雛の若

山のもよ花の彩ありひなの家

まつめうも来るや雛乃晴まうり

枝あらそや桃さく門の砂ぢもと

寿老人漑

門のそのそ手とやは桃の一海さき

伊勢とやを白うれて来うり桃の家

人を活汐平松ひろ汐平ば

汐平

花

久能山の葉ぶく

汐平ともたくて遠り浪間多

山寺や花より上をすぐ宮し

長良里

霧もむくひも花を垂る粉紛ば

ゆき我をうよ夕ぐれ花を寄

桜下三宮のあとらをふこそうく

ちつう三るれ宗をむきわふ

芭蕉翁のあとをしたい本国か

むしろかつしかやの度の
山路せんとて浪花里の家
樂書をうりける花の孫麻呂
年宮三間忌
ちきき多をついく父よと塚の雪
花曇晴くい雲れるひるり
河くまきらを盗人はこうが
山里の花手孫抱むしろ哉
嵐山

花ちるこのも食うもの嶮峨の宮
ふるふる嶮峨義よ拾く
味しるれとうふとそくもの月
賜亡人　呉井
ちきき事ちいのつきき拙よ花乃月
眉山の花りんと書高嶮の
文庫を高く水の後いく山
まるる伊和ろう乃山乃やく
位をやとうくこのろれい

花乃木ヲ孫ひけるを居まうけ

歸路

雲のうちいのくるまる山路の秋

東行首途

いかめしく雲ゐ立つる花見哉

佐夜の中山まく

ゆきぬるまくの花のうけあの山路哉

木母寺

花ゐ祝いまうまる深のうちうちん

笑美亭

年くまの花見指のうちうち

姥捨山

哉ゐ法ハ又ゆや姥ハ捨らもん

扇面海老漢

ゆきく花見形ゐ海老の鬚の先

紀ゐ花見形ゐやうの葉汁ゆ

ゆゆゆや哉ゐ宮乃影一筋

芭蕉堂新成美肖像ゐ画

きらく

妹背もうやまけし花のうけ

池乃端〳〵一間ばかりの岩

壺里や花乃名残を鳴り鳴

手のとゝは磨ぎしとぎ石

蕉翁の句を自得〳〵

色も香もなくて去る眼鼻ぶ

ちらと来ると花と見てとて目ハ鼻と

山寺ゝゝ

撞木もて藤と花見の泊客

七寺

鈴の音や花見てくれちせうと

道ゆきといふて去ぬ三度三度

捨てしさ世よりなるゝ　ぎくらし

久ゝとゝのふ所まで

このゆきゝ居や櫻ゆうひ石

杉櫻一本切まなりあるしゐ

枇杷園花見

やくそくハ又来る年はきさらぎ
みやこくさくらのもつとも盛なる梅ぞ
梅花園年きさらぎなかのきく
の池の蓮のきりしをまもる
明月のく乗もりくんと一人
ふるう紅金ひとく
曙や人乃きさらぎ成本乃雨より
品川や海もよろく山さくら
月きへく臺ふさらく咲ゐまり

東叡山
我人の見てもの月出たき櫻かな
妙義山
白雲乃名かゝ山は櫻葉
相原牧
駒ゐあとゝやゝ見くりけ和山さくら
さくらゐ土ハ残ゐ山生志和ゑ
鄙ゝ志ゐ和とゝいり童女と
妻内ゝ幸ゐの神宮

[illegible]

[illegible]

[illegible]

虎見葬

[illegible]

世の中[illegible]西上人乃

[illegible]

草

山吹

[illegible]

山吹や[illegible]

久米[illegible]

心[illegible]

山吹や[illegible]

やまあい[illegible]

得[illegible]家の側[illegible]西行堂

建てうとよもとの〜

躑躅

本瓜つくし　世よこのうしき高ど

このあさつとひらくとて経春の宮

慈福寿山

おのうまに森れむ咲堅れど

霧雨のふりうれるく春代宮

蕨魚れ伸しれを蕨代

くくくく

春のもがうもうもふう郎

春

鶯は梅年鳴けども春いれ

り春とあうれむ牛のうけど

り春や雪れふるうる沙弓山

り春ふは梅の春は少なも

り春もはう行やら　梅乃う

本居大人弟生の鳴い世乃

國へ偉らうと宮うく

杉坂の杉しれく春れうなれ

あさくうう宮しく春や萩の門

[illegible]

惜春

[illegible]

春殘

[illegible]

[illegible]

[illegible]

晩日ゆく春や竹の内浦乃山

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

四月　真名ゝ神馬乃肥る四月哉

下総国

卯月　湖畔より卯月吟ぜし乃自

更衣　[illegible]父のゝの若人たちく

[illegible]の高く人を踏り初衣

[illegible]

老慵

更衣　人のうしきに却てもきぬ
庵名　庵名の清をもりもるる山ぢかきまゝ
梅月　梅の人乃孫孫よりて英の主
　　ゆきしくむり人堂とつきもるる

灌佛　道もなく佛もなく孫ひろまる
牡丹　ちやくちと牡丹はもも坂乃内
芍藥　五六代芍藥つくる山家かな

麦秋　潮山乃麦ハ青うまき麦ハ秋
杜若　ゆきつもるし植ゑや池田の梅
　　地ハ多れ人間の鄙ぬ死つもる
芥子　白鼓ゆよ影屋ゆき小赤ゆ邦
　　あつしもくく人喫おつりけ紫
　　白ゆうゆうと芥子ハ蒼ゆ邦
　　けしれ花雲ハうも動きゆり
　　けしの苞ゆてゆ小ハ小ハて
　　桂五亭

松うけやうもとに茅子の花

卯の花　卯の花の枝葉をすかす垣根の角

しら花ゝ垣ゆふ男の邦

若葉　若さうやいつまでかきうら若葉

古墳殿

古墳苔を分て掃乃わら苔ふる

柿　柿の葉　望月のうらわかの邦

鶯湖

若葉ふ〳〵て不二見やさしき流行の湖

宋代戸代朝〳〵ちめりわら苔ふる

世義寺ゴ極ふ

夏木立　松風のふるうてもなほ木立

伊勢の国の御〳〵孔雀

こゝろをくばる

玉垣やまゝふるなき夏木立

茂　〳〵〳〵〳〵湖の苔也きりの苔

茅柳　茅柳の面やあ〳〵さの反苔

青嵐　楚和〳〵きて八舟り書河し

時の間に日枝に出でゝ青嵐

初松茸　きりゝを石川にまゝ夜源氏

きゝはやく吉瀬よ知つるゝ川をゝ

竹の子　竹のうゝやうゝ子伝寺の門

筍やまゝし四五尺ゝ葉の高

眠さふ竹の子をゝりよ出よゝゝり

ゝけのこふ竹ゝ論ゝ深世々な

ゝゝ物もゝし和ゝゝやゝゝき夏

ゝゝ夏は山ゝ女松ゝゝしゝゝ

子規

金屏の梅　夏ゝゝり和ゝ夏哉

海鼠繋深ゝ磯やいかのの石の俳

三輪のゝゝ里を過ゝて

杜宇　和ゝゝゝ山乃奥

鶯　寺坊ゝ夜

柔ゝさよ親ゝ書乃紙

市ゝ川ゝ

川ゝ丹やあゝ宋ゝ和ゝ紅葉

ほゝゝす俗や松明乃めの泡

祈のいくさいつも身衣好置硯

善提山菩提堂にて

宮仏を米うむやしに得とき寸

菩提の種をこゝに蒔江口の

遊女う草乃ゆゝしい弔ひる岳松

羅城門仏法三法ゆをこゝやて

女といふしゆゝ江口の花ゆゝ

碑歩

ゆゝ弘を時り空とゆの弥陀仏

神崎津眺望

川中へ鬼嶽おゝり花ゝまゝ

唐よあ行ハ山花ゝき夫山ま峰

子規書山なり乃ゝ物とうな

うつくしきゆゝこる高好置硯

杜鵑好しい稚ても月衣う那

さゝりなゝ知ゆ人や 杜宇

物ゝ雨とむゝ降もゝるを子規

住吉の橋ゝ乃至おゆゝ手沢

野子山手分ち三ツもあるも此方
飯田玉鉾堂記
十日ありて又も一度不動帰
陽堂こゝに此仏乃ゝし給ふ
岩屋あり大なるか不動なるを彫
つけり此あること世く縄を打を
之ちゝさきこゝもこゝ降をひくいと
ぬきまきてかくこゝをさまの
かとくまたのくや不動此御あり

甲斐の可都里の山ゆとして塩ちを
さうこゝして予が説話ゆやとり紙
いとも続ちもは
衰きやおちし根森はおとろきを
若きく人くゝ仲は枕の紙ちも
一鼎さん歌をかりゆきもと老乃
幸いゝ又文ゝ嬉
森ちきぬと夜明くゝはほと出
四月十日 大久保の拾ふ園中乃

[illegible]

書[illegible]

風越の時雨をはこぶほくそ次

[illegible]や遠木も時雨[illegible]次

一聲の後や空[illegible]おくる[illegible]

一雙青眼見山見海

耳[illegible]山[illegible]遠不時[illegible]

[illegible]堂遍て又時雨[illegible]

閑古鳥

[illegible]古鳥[illegible]乃花の中

曙や[illegible]

友[illegible]

菴[illegible]の[illegible]て[illegible]

戸を閉る寺乃雪や[illegible]

大平の山中

雪や山[illegible]

庭甫亭

夕月や[illegible]閑古鳥

錢ふ蕉雨

ぬるれ板うちやもゝ穂ゝう雨古ち
ふ古ゝ里あまり俳ゝゝ我を問へ

敷

敷ゝりや俳人の足よ動るゝし
いんきうんゝ蝿をりゝり板ゝゝ夕

故帳

連日れ雨子ゝるゝゝまて霧ゝせ
俳ゝゝゝゝゝや雀の歩ゝ故帳のゝ
ゝゝゝて黄よ故金八蒲黄唯ゝの
ゝゝゝぬをゝゝゝいへは俳る法雨

短夜

波をゝゝゝゝ元勢法師名八黄門信列
流坊の人俳諧ゝ板ゝゝ平ゝ
秋肥園ゝ言ゝゝゝ心ゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
いつ来ても敷屋ゝ蒲黄ふ月敷成
ゝゝゝ夜や冥屋よ徳る笠ゝ家
短夜乃月もいさゝふ雲ゝゝゝゝ
短夜ゝ身ゝゝゝゝよ嘆よ事ゝ
ゝゝの夜の月ふ鶯ゝ梯霖ゝ事

五月

夕面白く松の木の五月雨の
雫なおて美しう春の五月雨
中くよ五月を書し古歌衣
日比榊原乃温泉よりの
文ゆゑ端午なりしく硯はなる
粽をもくとありて山川氏より
ちうと湯入乃人はもこと
ちうくらはしを無しるを
ちうくを繁書者

菖蒲

白代あやめ

幟
粽

幟りんや五月松乃川法華
竹笛やむりしおりはさ粽
手枕しらにいくらもなく粽りの
見うえるもの乃新ふ玉ちる競馬
競馬
竹酔り
竹枝くまきしうるよりう苔はも
竹枝の日も人乃来て枝ひ弟祭
人り来て枝くもきう竹の唐
心ありやちいさ書体とう色る人
伊勢乃吉を表の茶店よ枝ふ

田植

田を植る人もうつくしかりけるハ
うえて去る山田を麻れ通る哉
ぬる星の数を田植れ雷鳴し
家毛しふるさへ植事哉水田ら

五月雨

五月雨乃伊勢に遠ちきく夕べ

雲母里

さらたもうせ光は屋根塀る高哉

業平の墓

ひらりとり潜れ金さよ五月雨

猿蓑塚

一ーたしもうや五月雨乃中
五月雨や軒ま[illegible]る[illegible]ゆめ草
ゆ[illegible]雨ゆ[illegible]雨の降乃ハ[illegible]
五月雨や笠と雲れ[illegible]

乙卯五月廿二日於五老峯勇良

居士追福

五月雨や元合止て[illegible]
さ[illegible]後ゆ蘭[illegible]

老夢　うたひたちとしたちさは夢しき
夢はしし賀まるれさくや
頃ちくしとしかまて

百合　うたをかはハ以ちくさて老やし
ゆとは書の衣をとはて山路
紫陽花　紫陽花やこと西の右はちち
長崎峠

夜盗子　あちさいはへ伊賀は境を
鳴れは柳んて眠ら いちこうれ

橘　書ちをの三はは見を花柑子
箬竹　葉の脇く箬竹蔵は掃除
箬竹は重は秀もしれはやちち
松ちして

書田　重書の場臭ゆけを書田の旅
書はちや大竹原をり箬
蜜　家蜜子二枝居ちち箬
沸しちはを蜜むふ唐の庭
竹ちちとちちくとある竹方上

張良瀬

雨もまた黄も青も橋乃上

[illegible]

[illegible]

[illegible]

水雞

[illegible]

[illegible]

龍門

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

梅花園夜會

西風や水鶏鳴き[illegible]

[illegible]

水雞鳴く

伊勢の[illegible]

[illegible]

鵜牛

岩ゆ柳ながるゝ中に月やく籌ぶ

狐川とゝさつを過る

竿ゝや柳のへるあるの水れ隈

ゝ面れ主を柳舟ゆゝぶ

籌ゝゝゝゝ柳れ傾ゝゝ

傾ゝゝゝゝ柳舟ゝな

金花山の葉ゝて

柳れゝ色ゝゝ良ゝ緑のひゝゝ

あゝゝれ柳舟よ残る煙ゝ邨

鮎

鮎れ背ゝ朝ゝゝゝ田村川

鹿の子　小倉山鹿のゝゝゝゝ流乃ゝけ

ゝゝゝゝゝゝ花のゝゝ橋れ籌ゝ

鵜射

れゝゝゝゝ鵜射やゝゝ人れ蕉

れゝ角ゝ流ゝゝゝゝゝゝゝゝ

信濃の善人亭

鵜射ゝゝゝゝゝゝ漁舟

大蛾れ蕉ゝ岸ゝゝゝゝ

ゝゝきゝゝ小倉れ柳ゝ邨

暑き夕やとせあつめうる菓の蔕
西ゝ[illegible]れ墨ぬりうるしき紙
青園れしうるゝ伯母法の名
俳しいなゐゆめ立の事ゆるゝハ
なゝいゝひうるハ

雨乞

夕立

西ゝや鳴も伊ふきもゆま高松
夕立や黒ゝ雲の横ふきうゝし
白ゝ西ゝ[illegible]きし男ゆきゆひ
夕ちや鳴うるゝ生る情所の所

團扇

夏月

鳴神やうゝ殿地長くうる雲
夕立や新て火を焚蚊の家
是淋うる寄ゝ第なり ちうは
唐れ衣やも廻りて立れ自
夜れ月五明まてうるり
ち寄ゝ外ちうなりなり
萩萩乃ちうしうゝ立の月
夜の月ゆもしゝしもうるゝ
蔓仲や塔物うる夏ゝ月

清滝も後をとうとをつけ月

餞巣居

去年乃友列もし人はをし
ハ友うてうまうまし既を
いうもんとをやまとつるもの多う
相うと人やハ水ハ月後のうけも
うつうとりてまくちふやさうを
悲しうとうれうとうハ一夜
千年うとうと戦もう

友の表　身と水うと友もうもうる友ハ和を
友　夏ちうぬ宮ち年うう事月和
西上人ハうれ野ハもうま
うしかうとうと見うと海もし
實方塚ハれまうきをうちのく
人ハううとうとうとうと弘を
をうう来う
友うとうも蓬をきうと方ハ芝ぶ

涼

源頼政卿詠歌

高瀬川浪のうへ永るさくらぐ
月の出もりてくる深しや松のう
雲う来てまくしらくもちる梅の上
水そうこう山をしつうなう
うこくそのを筆たのしき
しかうなるふそのをいのう
なし

新なる色はまくしき味ある

對和歌

ちるしき色とさて
をしまハ花ちるくるのを
つゆ今こそ世をさうゆ中て
想推しおし句と作るあハと
ちやうくをうとやこなを
ふ雲と酒よ沙二十文い移う
おし枯夏一枝尽ちうくう
志ハし無よの雪

納涼

[illegible]

居[illegible]

[illegible]

檀溪

[illegible]

[illegible]

漁火[illegible]

梅老[illegible]

[illegible]

涼風

雲峰

清水

[illegible]

[illegible]

さくさくと沙[illegible]

[illegible]

[illegible]

雲[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

夏池

交茅

夏蟲

投子

うし馬子一夢めきる交茅ぶ

交茅や一際ありく行京松

京より出る枯枝くもと本腐ぶ

苅藻つむうしとあるあつ蛙

夏てしこれ京をれしまい行京ぶ

榊原より門長生くあり河

江の曲し水多人語と集て

ゆうべ夏し松ある岩根よ

蓮

搖るよ息吹うけ乳面向り邨

蓮移り方のうるさよ蓮乃芸

蓮比丘やおよ佛ばあくそ

素堂不言や蓮八痴人を驚ぶ

あしけ音ゆ音ゆ雨の蓮可南

誰う裏を船こきうもし蓮の中

一句并二句

蓮の香や人もあり夢苔寺庭

飾ぶ高かや蓮の志門まり自身教

瀬戸山をあらとを三時ばかり
して帰路に路ふく雷鳴
驟雨乃うちとけて絶き山川の
あをゝあをの板を世界ゆく先の
川く只うつ絶ふかあり加うう
して矢田川をわたる夕陽
うつゝ駕うして中野
黄こうう
もゝれ花うや胡蝶乃いのち原

藻

浮藻ひけハ池一ぱいに咲ける
苔の花 咲ぬるゝや苔の色
苔生ぬるゝや家もち処 花さきぬ
月けしまうゝ栗ぬ苔乃花
こゝ夢の花実見へうあし言よ
枝ま枯ふ小ゝのうけやゝ乃花
古寺むうし此寺きゝ
ゝゝ
其原やあうとはうて苔の色

夕顔

夕がほやうちとけかける老木枝

一白井夕顔集

夕がほやたとへしらるる花の友

かれなんとする日やタがほは一二輪

夕がほや夜をかさねし月のもと

ゆふがほの落なんとする哀可那

ひるがほや梅待花はなくさもあり

横須賀常盤ヶ崎

晩春豊を惜らく

蟬

蟬の声よわりてもなほまさる

蟬なれは口うけは悔なく木うしは

堅しとなきてるけ八鄙々し蟬の声

蚕

蚕乃繭芙蓉の花よりも美しき

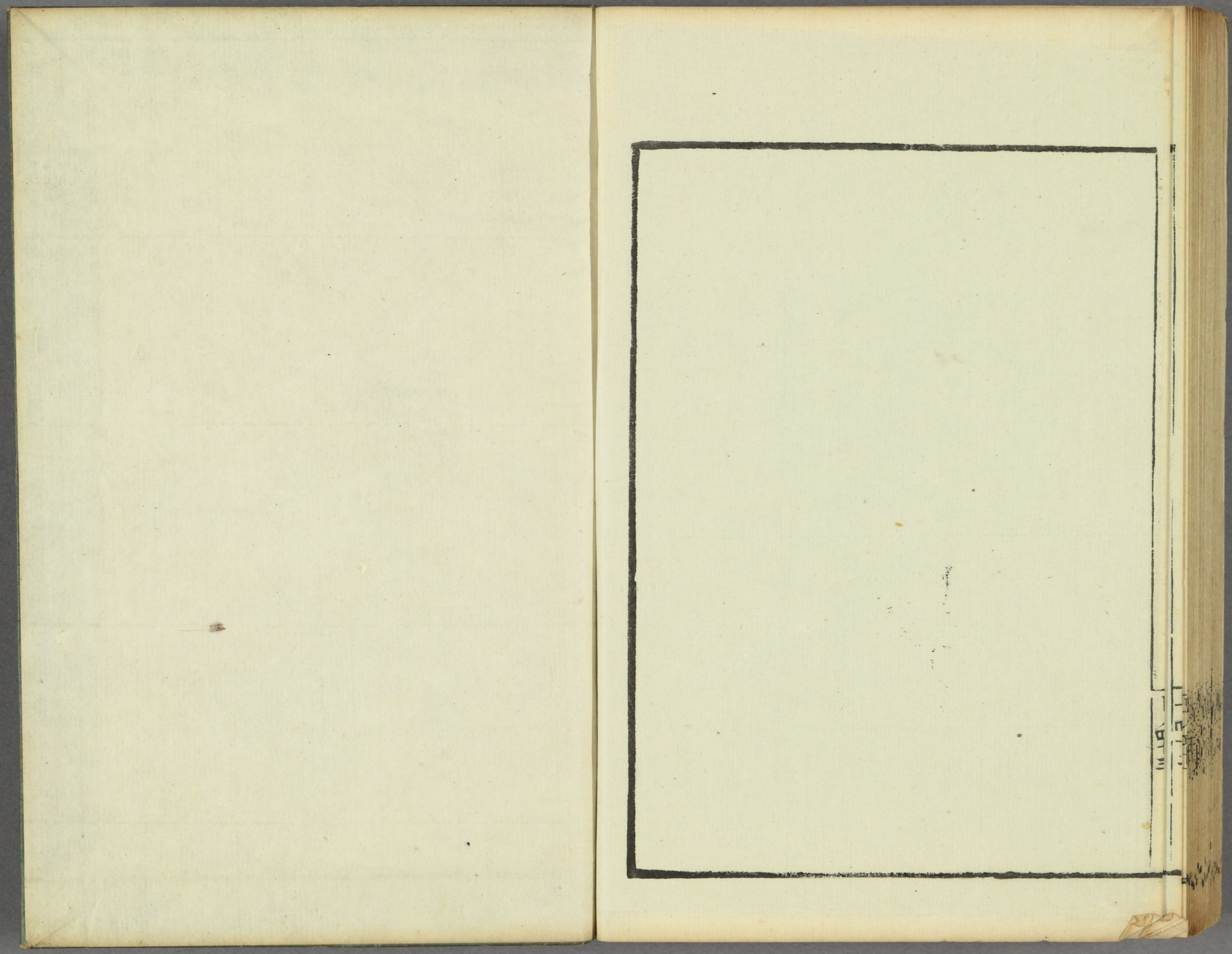
得鏡一字

秋近

蜻ちうよ新を鏡見くこそ

御枝

御枝してちや花高は枝うな

竜の音と沼やかこしは小盃

才よさいりう芦をとりて法稿ぶ